

京のアジェンダ'21 フォーラム

ローカルアジェンダのこれまでとこれから

2019年5月11日

元代表 新川達郎（同志社大学）

京のアジェンダ21フォーラム

京のアジェンダ21フォーラム



京のアジェンダ21フォーラム

agenda 21 forum

当フォーラムは京都市を拠点とし、さまざまな主体のパートナーシップで持続可能な社会の実現を目指す組織です。

『京のアジェンダ21』の策定

- 1997年：COP3(気候変動枠組み条約第三回締結国会議)の京都開催
- 1996年：ホスト市として京都市地球温暖化対策地域推進計画を策定
- 京都市においてもローカルアジェンダ21を策定しようという気運
- 1992年国連環境開発会議「アジェンダ21」：ローカルアジェンダ21は「行政のみならず、産業界や学术界、および市民たちが広く協働して、計画段階からより強いパートナーシップを形成すること」を推奨：日本国政府ローカルアジェンダ21は1993年策定
- この理念に従って京都でも各界代表者が集まり「京（みやこ）のアジェンダ21検討委員会」設置、1997年に『京のアジェンダ21』策定

『京のアジェンダ21』の特徴

- 産業界、行政、学界、市民が協働して策定、協働して推進
- 目的：二酸化炭素の排出削減による地球温暖化防止対策
- 具体的な目標：（1）省エネルギー・省資源のシステムづくり
（2）グリーン・エコノミック・ネットワークづくり （3）エコロジー型新産業システムづくり （4）エコツーリズム（環境調和型観光）都市づくり （5）環境にやさしい交通体系の創出
- 『目標』達成手段：（1）環境学習の推進 （2）推進組織の構築；パートナーシップ型で「京のアジェンダ21フォーラム」を組織

「京のアジェンダ21フォーラム」とは

- 1998年11月『京のアジェンダ21』に基づいて設立
- 目的：産官学および市民が協力しあって持続可能な社会の実現を目指して各種の取組を推進すること
- 方法：各主体の相互の理解と協調によってパートナーシップを形成し、より効率的効果的な環境取組活動を推進
- 実行手段：取組ごとに多主体参加によるワーキンググループ(分科会)を構成、そこから実践活動を形成

これまでの活動 1999~2004

- 1999年ワーキンググループ設置：ライフスタイルWG、企業活動WG、ゼロエミッションWG、エコツアーリズムWG、交通WG
- 2000年きょうとグリーンファンド、自転車観光マップ
- 2001年KES(環境管理システム)事業部、エコツアーリズム推進
- 2002年京エコロジーセンター(環境学習施設)開設と事務所移転、温対法地域協議会指定、KES学校版開始、省エネラベル運動
- 2003年ストップザ温暖化宣言(市民会議)、レンタサイクル社会実験、リユース食器試作
- 2004年省エネラベル協議会設立、

これまでの活動 2005~2011

- 2005年京都議定書発効、京都市温暖化防止条例施行（前年定）
- 2006年全国リユース食器フォーラム、KES取得1000超
- 2007年KES事業部がNPO法人化『KES環境機構』に
- 2008年京都環境コミュニティ活動本番で事業者募集、家庭の省エネ相談事業開始(相談所開設へ)、家庭の省エネアドバイザー養成研修、京グリーン電力制度(証書販売)開始（2010年協議会移行）
- 2011年京都市の新地球温暖化対策計画への提言、エコツーリズム地域コーディネータ活用事業

これまでの活動 2012～

- 2012年未来フェスタ京都～科学×エコ～共催
- 2013年京都市市民協働発電制度発足、京都市内再生可能エネルギーマップ作成、京都カーフリーデー
- 2014年祇園祭ゴミゼロ大作戦開始、KESエコロジカルネットワーク『和の花』プロジェクト
- この間、再生可能エネルギー・省エネ・住まいのエコ化、セミナーや進歩開催などを例年継続
- 2017年京都議定書20周年記念講演会・SDGsシンポジウム
- 2016-18年SDGs学習会連続開催
- 2019年組織再編：20年で3団体統合へ

KES



KES

KES・環境マネジメントシステム・スタンダード


KES Environmental Management System Standard


代表的な活動の発展：KES

- 環境マネジメント・システム・スタンダード
- 企業活動ワーキンググループから
- ISO14000シリーズとの関連で、中小規模事業者向けの環境管理システム基準と適用を模索
- 取組が容易でかつ効果的な環境マネジメントシステムを
- 事業拡大、独立してNPO法人KES環境機構へ：2019年3月には4977登録件数
- WGのプラットフォームからの発展：事業者団体、市民団体、行政の協働で進展

省エネラベル

省エネルギーラベル

	省エネ基準達成率	年間消費電力量
106%	100 kWh/年	
<small>目標年度 2012年度</small>		

	省エネ基準達成率	年間消費電力量
65%	130 kWh/年	
<small>目標年度 2012年度</small>		

統一省エネルギーラベル

2018年度版 

この商品の
省エネ性能は？



 省エネ基準達成率 100%未満  100%以上

	省エネ基準達成率	年間消費電力量
106%	249 kWh/年	
<small>目標年度 2012年度</small>		

この製品を1年間使用した場合の目安電気料金

6,720 円

目安電気料金は使用条件や電力会社等により異なります。使用開始中の確認画面に配慮し、省エネ性能の高い製品を選びましょう。

簡易版統一省エネルギーラベル

2018年度版

この商品の
省エネ性能は？

	省エネ基準達成率	年間消費電力量
120%	71.9 kWh/年	
<small>目標年度 2008年度</small>		

この製品を1年間使用した場合の目安電気料金

1,940 円

目安電気料金は使用条件や電力会社等により異なります。使用開始中の確認画面に配慮し、省エネ性能の高い製品を選びましょう。

省エネラベル

- ライフスタイルワーキンググループから
- 家電製品の省エネルギーの性能と節約と価格の対比を表示
- 2002年京都で「省エネ製品グリーンコンシューマーキャンペーン」から始まる
- 2004年京都省エネラベル協議会、そして全国省エネラベル協議会に発展、取り扱い店舗も急増、京都市の条例に盛り込み
- 2006年エネルギー使用合理化法改正で全国统一省エネラベルに、経済産業省所管財団法人省エネルギーセンターが担当
- WGのプラットフォームから：市民団体、事業者、行政の協働

20年を迎えた 京のアジェンダ21フォーラム

- 2019年任意団体から公益財団法人京都市環境保全活動推進協会に合併
- 新たな枠組みでアジェンダ21の展望を探る段階
- 国連のアジェンダは『アジェンダ2030』（持続可能な開発目標）へ
- 環境問題を含めた全方位の展開にどのように応えていくか
- 従来のワーキンググループ方式を維持発展させつつ、環境問題に関する社会課題に対して新たな解決法とその社会実験の場作りを；パートナーシップとプラットフォーム

京のアジェンダ21フォーラムの役割 これからの環境課題の解決のために

- 地球温暖化対策はすべての地球市民、組織団体、企業、政府の責務：個別の責任の自覚と役割の遂行
- 温暖化に関する環境問題の多面性、全方位性にどのように応えるのか：緩和策と適応策が個人の生き方、社会生活、経済生活、政治生活に、そして地域・国・世界を問わず関連
- パートナーシップによる取組の必然性：地域と世界を結ぶ、組織やセクターを越える取組のイノベーションを

ご清聴ありがとうございました。
～これからもご協力、ご支援を
よろしくお願いいたします。～